

9月5日（金） 実践報告1 第1室（432）

日本語と英語による報道の比較：多読から Critical Thinking へ Comparison of Japanese and English Newspaper Articles: Enhancing Reading Skills and Critical Thinking

星薬科大学 河野 圓

1. はじめに

新聞や雑誌の記事は、authentic material の一例として、活きた英語を学ぶのに有効な教材である。さらに記事を批判的、あるいは critical に読む学習活動は、教育上の意義が大きいと考えられる。ところが実際には、そのように深く掘り下げる授業を行うのは難しく、筆者の試みでは、英文の内容理解や要約と簡単な感想を述べさせる程度で終わってしまうことが多かった。大半の学生の感想は皮相的なレベルに留まり、記事に対し鋭い反応を示す学生は限られていた。

そこで、英文の記事と並行して、同じ題材を扱った日本語の記事も読ませたところ、日本語と英語の記事の書き方や観点に共通点や相違点があることを、学生がより明確に理解できた。言語習得の観点からも、同じテーマについての日本語と英語の記事を読むという行為は、両言語の語彙を増強させ、論理の展開の仕方を学ばせる効果があると思われる。この比較法を取り入れた授業を試みて3年目の経過報告を行う。

2. 授業の概要

対象クラス：薬学部学生 3 年生 1 クラス 20 人、半期選択科目

授業の目的：

1. 日本語と英語の記事を読み、それらの比較を通して、英語の多読のスキルを養い、日本語、英語の時事英語関連の語彙を増やす。
2. Critical Thinking や比較文化の視点を養う。
3. メモの取り方や要約の仕方、comparison and contrast の手法を学習する。

授業内容：

- 1) コースの前半—最初の数回の授業では、ニュースソースをいくつか紹介し、必要に応じてオンライン辞書の使い方などにも触れる。政治、経済、社会問題、科学、芸能、スポーツ等、様々な分野で、同じトピックの日本語と英語の記事を教員が予め用意して、学生に読ませ、内容を比較させる。例えば、ノーベル賞の発表について NHK と BBC による報道を比較させたり、クローン人間誕生に関するニュースと議論を、朝日新聞と New York Times の記事を用いて比較させたりする。また、日本の出来事について、日本と海外のメディアがそれぞれどのように報道しているかを扱う。この段階では、英文の記事に見られる、タイトルや文のスタイル、段落の構成の仕方など、時

9月5日（金） 実践報告1 第1室（432）

事英語の特徴に着目させる。

- 2) コースの後半一学生がこのようなタスクに慣れてきたら、各自で興味のあるトピックについて日本語と英語の記事を集めてきて分析をさせる。記事を学習者自身が選ぶという作業は Skimming や Scanning を繰り返して練習することになる。適当な記事がなかなか見つからず悪戦苦闘する学生もいる。集めた記事の大意を把握し、日本語と英語の情報を比較分析させる。

評価：コースの前半に授業で扱った教材については内容理解を問う試験を行う。後半は、日本語による口頭発表を1回、それとは異なる一組の記事に関するレポートを1つ課す。

学生の反応と授業の効果

- 1) 時事問題の捉え方は、日本語のメディアと英語のメディアとでは、使用言語が違うというだけでなく論調やアプローチの方法などにも大きな違いがあることを学生は認識できた。また、普段、漫然と読んでいた記事には「書かれていない部分」があることに気づいた、という学生もいた。メディアによる記事を批判的に読む姿勢が養成できたのではないか。
- 2) メディアの報道を理解するには、その背景の文化、歴史、社会情勢などを理解する必要がある。理科系の学生にとって、それらの学習は視野を広げるきっかけになった。
- 3) 日本の社会や歴史、慣習をあまり知らなかつた、とコメントした学生もいた。例えば日本の与党の三役を日本語で言えない学生もあり、一般常識の再確認を行いながら授業が進行した。
- 4) 自由課題では、薬学や生命科学関連の記事を選んだ学生と、専門とは関係のないテーマを選んだ学生の2つに分かれた。
- 5) 英語の習得という観点では速読のスキルが最も向上した。

3. 今後の課題

同じテーマの記事を2つの言語で読む時、教師が指定をしなければ、ほとんどの学生が日本語を読んでから英語を読む。言語習得を促進させるにはどちらを先に読ませたほうが良いのだろうか？ 2言語の相互作用を2003年度の実践の中で考えてみたい。

また、リーディングに留まらず、他の技能も含んだ授業の展開を行うよう工夫をしたい。分析結果を英語でまとめて口頭発表を行うなどの活動を試みたい。

参考文献

Conner, U. (1996). *Contrastive Rhetoric: Cross-cultural Aspects of Second-language Writing*. New York: Cambridge University Press.